



虹

患者への思いに国籍なく

若い研修医に交じって、中年の男性が落ち着いた口調で患者の容体を報告する。名古屋大病院（名古屋市昭和区）で毎朝開かれる情報交換会議。四十五歳の研修医、幸若俊英さんである。

南太平洋に浮かぶ、仏領ニューカレドニア島出身。祖父と母は福岡県出身で、日本人の血が四分の三流れる日系フランス人だ。

仏マルセイユ大で医学を学び、昨秋まで内科医として母校の付属病院に勤務。「違う国



若い研修医に交じり、会議で患者の病状などを報告する幸若さん（名古屋大病院で）

の医療も学びたい」と国家試験に合格して二年間の臨床研修を受け、四月に来日した。

柔道三段の黒帯。かつて四年間留学した日本で、整体や接骨などのスポーツ医学を学んで、骨折が多いお年寄りたちを幅広く診る医師になりたかった。

外国人医師が日本で患者を診るには、医師国家試験に合格して二年間の臨床研修を受けなければならない。こうした厳しい道を選ぶ人は少ないが、幸若さんは違った。辞書を何度も引いて、日本語の医療専門用語や漢字を勉強。約二年かけて試験に合格した。

勉強。約二年かけて試験に合格した。男と暮らす住まいはDKで狭すぎる。

そんな中で、一人の研修医仲間が、担当患者が退院するとき、病の励みにしていた歌を披露した。その人間的味のある姿に、「患者に尽くす気持ちに変わりはない」との思いを新たにされた。

「良いところも悪いところも知りたい」

日仏の医療の橋渡し役となるために。それこそが、日本に来た意義だと感じている。

（社会部・島崎諭生）

虹 患者への思いに国籍なく

若い研修医に交じって、中年の男性が落ち着いた口調で患者の容体を報告する。名古屋大病院（名古屋市昭和区）で毎朝開かれる情報交換会議。四十五歳の研修医、幸若（こうじゃく）俊英さんである。

南太平洋に浮かぶ、仏領ニューカレドニア島出身。祖父と母は福岡県出身で、日本人の血が四分の三流れる日系フランス人だ。

仏マルセイユ大で医学を学び、昨秋まで内科医として母校の付属病院に勤務。「違う国の医療も学びたい」と四月に来日した。

柔道三段の黒帯。かつて四年間留学した日本で、整体や接骨などのスポーツ医学を学んで、骨折が多いお年寄りたちを幅広く診る医師になりたかった。

外国人医師が日本で患者を診るには、医師国家試験に合格して二年間の臨床研修を受けなければならない。こうした厳しい道を選ぶ人は少ないが、幸若さんは違った。辞書を何度も引いて、日本語の医療専門用語や漢字を勉強。約二年かけて試験に合格した。

幸若さんにとって、日本の医療現場は驚くことばかり。夜勤や土日の当直勤務は“ただ働き”同然で、会議の連続で疲れ切った同僚は「患者が来ないように」と願っている。研修中の給与は、フランス時代の半分。妻と長男と暮らす住まいは1DKで狭すぎる。

そんな中で、一人の研修医仲間が、担当患者が退院するとき、闘病の励みにしていた歌を披露した。その人間味のある姿に、「患者に尽くす気持ちに変わりはない」との思いを新たにした。

「良いところも悪いところも知りたい」

日仏の医療の橋渡し役となるために。それこそが、日本に来た意義だと感じている。

(社会部・島崎諭生)